

瑞浪市公共施設等総合管理計画

個別施設計画

【文化・社会教育系施設】

③社会教育系その他施設（自然ふれあい館）

（第1期第5版）

令和6年3月

瑞浪市教育委員会スポーツ文化課

目 次

1. 計画の策定について	1
（1）計画策定の趣旨	1
（2）計画の位置づけ	1
（3）対象施設	1
（4）計画期間	1
2. 現状と課題について	1
（1）個別施設の状態等	1
（2）施設の利用状況	2
（3）施設の抱える課題	2
3. 計画策定方針について	2
（1）基本方針	2
（2）対策の優先順位の考え方	2
4. 具体的な取組内容について	3
（1）対策内容と実施時期	3
（2）対策費用と今後の方向性・スケジュール	4

改訂履歴

初版	平成30年2月
第2版	令和3年3月
第3版	令和4年3月
第4版	令和5年5月
第5版	令和6年3月

1. 計画の策定について

(1) 計画策定の趣旨

瑞浪市自然ふれあい館は、釜戸町にある自然豊かな竜吟峡に立地し、人と自然とのふれあいを通じて、自然保護に対する理解を深めることに寄与することを基本理念として設置された施設です。また、自然に親しむ活動の指導及び普及並びに自然保護の指導及び啓発のため活動する拠点施設としての役割を担っています。平成 17 年度（2005 年度）以降、指定管理制度を導入し、現在は、釜戸町まちづくり推進協議会が指定管理者となり、適切な管理運営がなされ、館の設立趣旨に沿った事業を展開しています。

これまでのところ、施設自体に大きな修繕を施すことなく、指定管理者により良好な維持管理が行われてきましたが、今後は、施設の改修時期等の課題があるため、ここに個別施設計画を策定し、課題の解決に取り組んでいきます。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、「瑞浪市公共施設等総合管理計画」の個別施設計画として位置づけています。

(3) 対象施設

本計画の対象施設は、平成 26 年度（2014 年度）に整備した固定資産台帳による以下の施設です。

対象とする施設

中分類	小分類	施設数	施設名称
文化・社会 教育系施設	社会教育系 その他施設	1	瑞浪市自然ふれあい館

(4) 計画期間

本計画の期間は、「瑞浪市公共施設等総合管理計画」の個別施設計画という位置づけから、平成 29 年度（2017 年度）から令和 8 年度（2026 年度）までの 10 年間を第 1 期とし、ローリングします。

なお、5 年ごとに見直すことを基本としている瑞浪市公共施設等総合管理計画と整合を図っていきます。

2. 現状と課題について

(1) 個別施設の状態等

これまでに大規模な改修等は行わず、比較的良好な状態にあります。付帯設備の老朽化が目立つようになりまし。なお、点検・診断については、職員による目視点検を実施するほか、改修が必要な施設について、基本設計等に包含して実施します。

この計画で対象となる施設の状態等は以下のとおりです。

施設名	建築年度	延床面積	構造	老朽化率
瑞浪市自然ふれあい館	H13（2001）年度	178 m ²	木造	75.6%

※令和元年度（2019年度）固定資産台帳によるデータ

（2）施設の利用状況

年度	入館者数	受講者数/ 講座数	指定管理者制度導入評価調書による	
			アンケート評価 (非常に満足と満足の計)	総合評価
H27	9,779	542/29	98%	A
H28	6,703	429/24	100%	A
H29	8,774	423/16	63.9%	A
H30	9,896	550/15	93.8%	A
R1	10,126	613/24	87.2%	A
R2	3,251	309/21	100%	—
R3	4,871	335/21	94%	—
R4	11,826	458/30	99%	—

*平成29年度（2017年度）は、竜吟峡砂防堰堤工事のため駐車場利用不可による入館者減

*令和2～3年度（2020～2021年度）は、竜吟峡砂防堰堤工事と新型コロナウイルス感染防止策のため入館者減

（3）施設の抱える課題

自然ふれあい館は、自然探索や体力づくり等のために竜吟峡を訪れる人々と交わる中核施設です。施設単体の来訪よりも、竜吟峡の散策路・自然観察小屋などを含めて来訪する機会が多いことから、これらの施設等も適切に維持管理が必要となります。

3. 計画策定方針について

（1）基本方針

現在の施設は、木造施設のため耐用年数が短い施設です。令和4年度の利用度割合は平成30年度に比べ120%と高く、他に類似施設がないことから、今後とも施設は存続する必要があるものと考えます。また、竜吟峡の自然環境の維持管理とともに、人と自然のふれあいの場としての機能及び質の向上を図っていきます。

（2）対策の優先順位の考え方

施設の整備を進めるにあたり、利用者の安全の確保やニーズへの対応など施設の現状と課題について、次の視点から総合的に検討し、取り組みを進めていきます。

○利用者の安全の確保

- ・施設に著しい老朽化が見られる、災害に関するリスクが高い要因があるなど、施設や立地に起因する課題を抱え、利用者の安全を確保する上で必要のある場合は、その解消を図るため優先的に取り組みます。

○利用者ニーズや課題への対応

- ・新たな利用者ニーズが求められる場合は、必要に応じて、施設機能の向上について優先的に取り組みます。

○財源の確保

- ・国及び県等の補助事業や起債など財源が活用できる施設整備については、活用できる期間等を考慮し、優先的に取り組みます。

○費用対効果

- ・施設整備に伴う費用と、整備により得られる歳出削減額の効果を検証し、より高い費用対効果が見込まれる場合は、優先的に取り組みます。

4. 具体的な取組内容について

(1) 対策内容と実施時期

24年の耐用年数を超えて施設を存続するため、令和4年度以降に施設改修を念頭においた計画を策定するとともに、使用目標年数を40年として長寿命化等のための改修を実施します。

令和3年度に、本施設を釜戸公民館分館的位置付けて、同じ指定管理者の元で公民館とふれあい館の一元管理を行うことを検討しましたが、同じ社会教育施設であっても、施設の設置目的が異なるため、それぞれ単独の指定管理施設としました。

(2) 対策費用と今後の方向性・スケジュール

施設名	建築年度	耐用年数	使用目標年数	今後の方向性	実施年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
自然ふれあい館	H13	24	40	適正規模検討	対策内容								長寿命化改修検討		
					対策費用										

・施設の法定耐用年数を超えて延伸させることを目的とした長寿命化改修を行う場合は、施設の使用目標年数とその必要性を記載すること。

・対策費用の単位は、百万円とすること。(対策費用は概算であり、変更する場合がある)

※使用目標年数を40年とし、ライフサイクルコストの縮減を図る。